

会 議 録

会議テーマ	令和6年度 第1回阿南市総合教育会議		
開催年月日	令和6年8月27日(火)	資料の有無	有
会 場	阿南市役所6階 603、604会議室		
出席者	【構成員】 岩佐市長、坂本教育長、林教育長職務代理者、里美教育委員、新居教育委員、岡本教育委員 【事務局】 吉積企画部長、七條企画政策課長（司会）、西田主事 【関係課】 中橋教育部長、田上教育総務課長、小笹教育総務課課長補佐 鎌田学校教育課長、市瀬教育研究所副所長、中山教育支援教室室長 西岡学校再編推進室室長、藤居学校再編推進室室長補佐		
傍聴者	5人		
内 容			
13：12 開会			
【七條企画政策課長】 定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回阿南市総合教育会議を始めさせていただきます。 本日は、お忙しいところ、御出席いただきましてありがとうございます。また、台風10号の影響で本日の開催が危ぶまれておりましたが、無事開催することができました。予備日の日程調整につきまして、御理解、御協力いただきありがとうございます。私は、本会議の事務局を担当しております、企画政策課の七條でございます。協議に入りますまでは、私が進行役を務めますので、どうぞよろしくお願いいたします。 本日の資料は先にお配りしておりますが、不備不足等はございませんか。なお、本会議は阿南市総合教育会議設置要綱第6条の規定により公開することとしております。また、同要綱第7条の規定による会議録を作成するために会議の発言内容を録音させていただきますので、あらかじめ御承知おきください。また、後日、会議録を市ホームページに掲載させていただきますので、御了承の程よろしくお願いいたします。はじめに、岩佐市長から御挨拶を申し上げます。			
【岩佐市長】 皆様、こんにちは。本日は御多忙の中、令和6年度第1回阿南市総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。先ほど、司会者の方からもありましたが、台風10号が接近しており、また今日においても時折雨が降っているような中、開催の可否など色々な不安もあったかと思いますが、開催することができました。そうした中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様方におかれましては、日頃より阿南市の未来を担う子どもたちの教育の充実と発展に大変な御尽力をいただき、また市政各般に渡りまして御指導、御協力をいただいておりますこと			

を心から感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議は、教育委員の皆様方と教育現場での子どもたちを取り巻く現状や課題などを共有しながら、それぞれの役割について闊達な議論を交わすことによりまして、意思の疎通を図る重要な場であると考えているところでございます。今回は、「不登校児童生徒の多様な学びを支えるために」、「小・中学校再編に係る市長部局と教育委員会との連携」を協議事項とさせていただいておりますので、皆様には忌憚のない御意見を賜りたいと存じております。今後におきましても、総合教育会議を通じて、より一層教育委員の皆様方との連携を深め、主役は子どもたちであるということを念頭に置きながら、教育の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、皆様方の御協力と御意見をよろしくお願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【七條企画政策課長】

続きまして第3の協議に移らせていただきます。

阿南市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、岩佐市長に議長をお願いいたします。

【岩佐市長】

それでは会議に入らせていただきます。

協議事項1「不登校児童生徒の多様な学びを支えるために」についてでございますが、まずは教育研究所から説明をお願いいたします。

【市瀬教育研究所副所長、中山教育支援教室室長】

阿南市教育研究所の市瀬と教育支援教室ふれあい学級の中山です。「不登校児童生徒の多様な学びを支えるために」について説明いたします。

【中山教育支援教室室長】

今日お話す項目です。

初めに不登校の現状について述べます。小・中学校の不登校児童生徒数は、令和4年度は全国で29万9,048人と過去最多でした。県では、1,565人、阿南市では、231人です。阿南市の不登校状況実態調査では、30日以上欠席者数を調べています。そのため、病気やけが、事故等で欠席した数もこの中に含まれています。そして、令和5年度の30日以上欠席者は247人でした。令和元年度の136人から、5年間で100人以上増えています。令和4年度と令和5年度の各校からの報告によると、不登校の要因は多岐に渡り、複数の要因が重なっている場合もあります。その中でも、集団生活によるストレスやコミュニケーション力不足等、学校生活に起因するものが、家庭生活や本人の問題と比べて、多くなっていることが分かります。令和5年度の不登校について見ていきます。不登校生は小・中合わせて247人でした。247人には、ふれあい学級の通級生の数やフリースクールに通っている人数も含まれます。247人から、ふれあい学級入級生12人と仮入級生24人を足した36人とフリースクール等に通っている32人を合わせた68人を引くと、179人になります。179人の中には、病気等による30日以上欠席が含まれていますが、家庭以外の居場所がない人もたくさんいると思われます。そのため、長期に家庭に閉じこもったり、引きこもったりしないためにも、学校以外の居場所の確保が大切になってきます。

以上のような現状から、2つの課題を挙げます。課題1、不登校児童生徒の居場所であるふれあい学級を周知し、充実させるためにはどうしたらよいか。課題2、不登校児童生徒に多様な居場所があることを知らせるにはどうしたらよいか。

まず、ふれあい学級について紹介いたします。阿南市教育支援教室ふれあい学級では、このような日課で、児童生徒を受け入れています。火、水曜日は14時まで、その他の曜日は正午までですが、それ以外の時間にも、保護者の教育相談や通級を希望する児童生徒の見学、体験通級等を行っています。また、級外活動として、毎月、調理実習をひまわり会館で、体育活動はB&G体育館で、市のマイクロバスを無料で使わせていただき実施しています。5月末にはササユリを見に伊島へ、7月には科学センターで火山灰やメダカの血流を観察してきました。多くの体験活動ができるように工夫しています。

第1回不登校対策連絡協議会では、参加した先生方の半数が、「ふれあい学級に来たのは初めて」と回答しており、ふれあい学級という言葉は知っているけれど、クラスの児童生徒が利用していないければ、訪問することはほとんどないというのが実情です。ふれあい学級の存在や活動内容を知らない先生方、保護者、児童生徒の皆さんにふれあい学級の存在を広く周知するためにも、魅力的なホームページが必要となります。しかし、ふれあい学級では、市内の小・中学校が使用しているe-とくしま財団によるホームページの整備ができていないため、ページ作成にたくさんの手間と時間がかかっています。来年度は、e-とくしま財団によるホームページの整備を要望します。今後、ふれあい学級を広く知っていただくために、ふれあい学級ホームページの充実を図るとともに、市教委・教育研究所ホームページ、市ライン等の情報ツールを活用し、ふれあい学級のホームページを閲覧できるように整備していきます。また、周知方法として、ふれあい学級のチラシを作成し、市内小・中学校の児童生徒の全家庭に配布したいと考えております。各校にて電子媒体で配布してもらえよう準備中です。

ふれあい学級の運営体制についてですが、月、金曜日が2人、火、水、木曜日が3人となっており、曜日によって、電話対応や訪問対応が重なると、目の前の児童生徒への対応が十分できないことがあります。せっかくふれあい学級に来てくれた児童生徒に対して、一人一人のニーズに応じた温かい対応をすることは、何より大切です。また、仮入級の児童生徒への連絡、ふれあい学級を継続できない児童生徒へのフォローや他の窓口を紹介する等、家庭との接点を切らさないようにすることも大切です。加えて、現在、支援員全員が会計年度任用職員であり、保護者連絡や学校連絡も16時30分までとなり、それ以降の連絡が取りにくい状況です。保護者や学校との連携を密にするためには、もう少し時間の余裕が必要です。通級生が、安心し安全に学ぶためにも、常時3人体制を要望します。

県内の教育支援センターは、相談窓口をどのように設置しているか、また、フリースクールとどのような連携をしているか、の2点について設置市町の状況を調べました。次のような取組が大変参考になりました。1の徳島市では、県の事業と同様、教育研究所から不登校児童生徒の家庭へ大学院生を派遣する取組を行っています。6の阿波市では、正規教員を配置することで、切れ目のない指導を実現しています。9の石井町では、町専属のスクールカウンセラー2名が支援員として常駐し、相談内容に応じて、県の医療部会から医療機関等を紹介してもらい、つなげているとのことでした。14の板野町では、ライフサポート少年育成として、警察や病院を含み、地域ぐるみで体験サポートを行っているそうです。また、鳴門市と上板町が、活動内容について、フリースクールと情報交換や情報共有を行っているとのことでした。関係機関との様々な連携の仕方が参考になりました。どの施設も相談については、各事例に応じて個別対応しているとのこと、参考にしたいと考えていた、不登校になった際の相談窓口一覧を作成しているところはありませんでした。令和4年から令和5年にかけて、阿南市のフリースクール等へ通う児童生徒は16人から32人の2倍となり、フリースクールの存在は大きくなっています。

【市瀬教育研究所副所長】

課題2の多様な居場所を知らせるため、実際に施設を知りたいと考え、阿南市、また周辺の施設を

7月、8月に訪問しました。施設の特徴について、ホームページや実際に訪問した印象から説明します。「にじいろ広場」、活動日は火、木、金曜日。教室の隣には、子どもたちと作った木造の小さな建物がありました。地域とのつながりを大切に、近所の人や下校後の子どもたちが入りやすいように、玄関で駄菓子などを販売していました。「NPO 法人ぺんぎんのおうち」、子どもが考えること、子どもと考えること、子どもの自主性を大事にすること、子どもの様子を見守ることを大切にしていると話してくれました。「フリースペースわれもこう」、訪問した時は、一つの教室の中で、4つのコーナーを作り、ゲームやデジタル教材を使った学習をしていました。最後の振り返りでは、今日自分がしたことについて班の中で話してくれました。他にも、放課後デイサービスですが、学校に行きづらい子どもも受け入れている「フリースクールステ」、コンセプトは、いつでも帰ってこられるおばあちゃんち。縁側のある離れが主な活動場所で、周辺の畑ではオクラなどを育て、畑の一角では烏骨鶏を飼っていました。フリースクールではないですが、NPO法人自然スクールの「トエック」も訪問させていただきました。野外や部屋の中、様々な場所で子どもが自分で考える活動をしていました。子どもの集中力を切らさないよう、食事の時間にも配慮がありました。実際に訪問することで、どの施設も明確な方針、特色や良さがあることがよく分かりました。児童生徒の主体性を大切にしながら、よりよく伸ばしていきたいというところは、学校もフリースクールも重なります。児童生徒に色々な居場所があるという情報を届けるのはとても大切なことです。

続いて、子ども第三の居場所あすきらとの連携についてです。ふれあいには、和式のトイレしかないため洋式トイレを使用させていただいています。明日は、あすきらで調理実習を一緒にさせていただく予定です。一方、ふれあい学級からは、あすきらに通所している児童生徒から要望があれば、学級配属のスクールカウンセラーが空いている時間に相談する時間を取ることができます。週に一度ですが、水曜日には、14時までふれあい学級、それ以降はあすきらを利用することもできます。今後も、児童生徒の居場所づくりができるように工夫して連携していきます。

今後の方向性として、教職員、児童生徒、保護者への情報共有を進めていきたいと考えています。困った時にどこへ相談したらよいかを明確にするため、不登校相談窓口一覧を作成中です。以下の情報ツールに掲載する予定です。①市公式ラインの「子育て・教育」欄の「ご相談」欄に新設した「不登校支援」の項目 ②「あななん」回答 ③教育研究所ホームページ。

次に、不登校生の居場所の選択肢を増やすために、不登校対策連絡協議会の工夫を行っていきます。5月に第1回不登校対策連絡協議会をふれあい学級で行いました。その感想の中に、「今まで来たことがなかったので、実際に来て良かった。児童生徒に自信をもって勧められる。」という意見がありました。特に担任の先生は、校外へ出づらく、多くの選択肢を示すことが難しい状況です。これらのことを踏まえ、第2回不登校連絡協議会では、鳴門教育大学大学院の吉井健治教授に不登校の子ども及びその保護者とつながるための関わり方についてご講演いただきました。この会では、これまで参加者が教職員のみであったところを関係機関と連携を深めるため、阿南市こども支援課、主任児童員、健全育成センターの方々にも呼びかけ、9名の方に参加いただくことができました。このご講演は録画しており、市内小中学校で、職員研修等に使用させていただく予定です。

年度により、ふれあい学級の状況は異なりますが、昨年度は入級生12名のうち、9名が中学3年生でした。学校に行きづらく、家に閉じこもっていた生徒が共に学び、活動するうちに、ふれあい学級が居場所となり、様々な体験を重ねる中で自分の進路や目標を見つけることができました。入試に向けて努力した結果、現在は高校生になり、元気に通学しています。今後もふれあい学級を居心地のいい場所にするとともに、阿南市の全ての子どもたちが自分の居場所を見つけ、社会的に自立できるように様々な選択肢を示していきます。ありがとうございました。

【岩佐市長】

ただいま教育研究所からの説明がありましたが、これらの説明を踏まえた上で、委員の皆様方の御意見、御提言をお聞かせいただきたいと思います。また、先ほどの説明で質問等もあれば、担当課からお答えをさせていただけたらと思っております。それでは林さんから反時計回りに御意見、御提言等いただけたらと思っております。進行上、2時にはもう一つのテーマの方に移りたいと思っておりますので、御配慮いただけたらと思います。

【林委員】

ふれあい等の現状と今後の課題について、報告ありがとうございました。「今日も机にあの子がいない」、これは1950年に長欠・不就学対策として全国で初めて高知県に配属された福祉教員（本県では後に「同和教育主事」）の苦闘の記録から生まれた言葉です。終戦直後の混乱期、日本には貧困ゆえに学校に行けない子どもたちが数多くいました。そうした子どもたちの家庭を昼夜の別なく訪問し、子どもたちや保護者・地域に寄り添い、粘り強く関わり続けた福祉教員たちの姿は、教育者はもとより行政職員として忘れてはならないものを私たちに教えてくれているのではないのでしょうか。当時と現在では、社会情勢や子どもたちの生活環境も大きく変わっていますが、子どもをど真ん中に据える教育が提唱され、こども家庭庁ができて、今までの行政の縦割りの壁が少しずつ取り払われていっているスタートの年かなと強く感じ、同和教育運動の歩みの一歩となった言葉が蘇ってきました。

今こそ、教育現場、行政、地域があこの記録にあった不登校の子どもたちを支えるために、どこに立って考えを及ぼしているかというのが新たな問題ではないかと思えます。

先ほどの関係機関との連携ということから、この機会に引きこもり対策、ヤングケアラー等の課題も含め、居場所だけでなく生活自体を丸々、対策を練っていく必要があるのではないかと、全同教の動きも含めて感じたところです。以上です。

【新居委員】

阿南市の不登校状況、こちらを見ていただいて分かるように、一番に学校不適應というのがありまして、集団生活・ストレスによる腹痛。私の周りにも学校には行きたいのだけれども、行こうと思って教室に入った途端に腹痛を起こして帰ってきてしまうというお子さんもよく耳にします。ふれあい学級、フリースクール、阿南でもそんなに一気に増えたのかなという思いで見させていただいたのですが、ふれあい学級につきましては、小、中学生両方通われていますが、トエック、あと他の学校は小学校の生徒さんのみなののでしょうか。

【坂本教育長】

トエックは小学校だけですが、にじいろひろばは中学生もいます。正式に入級しているかどうかは分かりません。

【市瀬教育研究所副所長】

トエックの対象は、幼稚園、小学生です。あとの施設については、中学生も行っていると認識しておりますが、改めて確認しておきます。

【新居委員】

ありがとうございます。中学校までということでしたら、まだ連携が取れているのでいいのですが、私は以前トエックの卒業生のお母様とお話した際に、小学校までは自由に行くことができて

いたが、中学校に入ったら不登校になってしまった。あと、自由な発想ということはいいいのですけれども、自由過ぎて卒業後、地元の生徒との関わりが上手にもてなかったと聞いております。やはり、フリースクールへ通われる生徒さん、そして親御さんも阿南市の小学校、中学校としっかりと連携をとって、この子たちがこの先どのように進んでいったらいいのか考えていかなければなりませんし、フリースクールは自由でよかった、でも高校に行ったら思っていたのとは違ったなど、先々の心配もありますので、地域の学校もフリースクールと連携もしっかり取っていくことができるようなプランを立てていけたらと感じております。以上です。

【岡本委員】

阿南市の不登校の現状の中で学校不適応の欄の数字が比較的多いとありますが、不適応の中でも様々な要因は必ずあるかとは思いますが。こうなったときに、そういう場所を作ろうとして、ふれあい学級や、フリースクール等を開設するところもかなりあるかと思うのですが、不登校になる前に何かできないかという観点からとなりますが、やはりずっと同じ子と登校していると、1年間の中で行きたくないというようなところで、何か1つ変化をつける案として、デュアルスクールですかね。今、那賀町の方でもこの保育園スクールというのを設けて、外部、県外の人を保育園留学として来ているところもあるみたいです。そういった外部の方を受け入れながら、何か学級の変化を年に1回与えてあげることによって、何か自分の変化を見つけたり、違う子と触れ合うことによって何か違う自分を見つけ出したりというようなことができたならなど。

また、都会には田舎を体験したいという方々もいる中で、阿南市においてそういった方々の受け入れもすることができれば、市としても魅力を発信することができるのではないかなというふうに思います。以上です。

【里美委員】

阿南市の不登校児が増えているというのは、皆さんおっしゃったように驚くような状況ですが、多分、阿南市だけじゃなくて全国的な傾向ですよ。ということは、いわゆる従来の教育方式、みんな一緒に同じ時間に同じ学校に行きましょう、というのは社会の変化に十分に連動できていないのではないかと思います。

だから、問題はかなりもうちょっと広く深くあるのではないかな、柔軟な教育のあり方というのが、社会全体で求められている時代が来つつあるのかなと思います。例えば、地元の高校に定時制が併設されているところがありますけれども、最近はいわゆる従来の定時制のイメージと違って、一つの選択肢として選んでいる子どもたちがちょっと増えてきているみたいです。定時制の子どもたちが作ったホームページを見て、あの子どもたちの中から何かこうしたいというようなエネルギーみたいなものを感じました。教育委員を長くさせていただいており、10年以上前から、このふれあい学級に定期的にお邪魔して、色々な活動を見ているのですが、個人的には阿南市の教育力の高さを一つの形として体現しているような施設だなと思っています。例えば、私の近所の子どもさんなのですが、中学で学校に行けなくなりふれあい学級でお世話になって、高校に進学し、今は社会人として立派に生活しておられます。これに加えて、以前、「教研情報」にふれあい学級に行っていた生徒さんの作文が載っていて、偶然、それを県外の教育関係の方にお見せした際に、「本当に素晴らしい」と言っていたので、本当に阿南市の教育は誇らしいなと私が思ったことがございます。

コストの面なのですが、フリースクールを色々御紹介いただきましたが、それぞれコストが異なるのでしょうか。入学の費用について、教育は全てが無料ではないと思うのですが、それに対してふれあい学級は無料です。これは非常に大きいんじゃないかなとお話を伺っていて思いました。保護者の方にとすると、あの選択肢の中で学校に義務教育を受けるのと同じような形で無料で先

生方が温かく見守って暖かく立ち回ってくださっているなと思いますし、折に触れて、話をする先生や友達ができてよかったという方がいらっしゃいます。ですので、これを無料で受けられるっていうのは非常にありがたいなと思いました。無料のバスを市から借りていると先生がおっしゃっていましたが、これもありがたいなと思ひまして、このような形で財政的にも支援していただいて、バックアップしていただくっていうのをこれからも引き続きお願いできたらなと思います。よろしく願いいたします。

【坂本教育長】

まずは不登校というひとくくりの言葉で学校へ行っていない状況を表されますが、実際は中には30日以上欠席で病気や経済的な理由を除くという枠組みになっているのですが、30日といひますと週に1日休んだら不登校となります。ですから、日曜日に何かしらの理由で疲れて、月曜日休みがちであると、統計的にはその子は不登校という枠に入ってきます。それから、1日も学校に来ない全休の子ももちろん不登校となります。ですから、週に1日休む子というのは、おそらく保護者も本人も不登校という認識はあまりないような状況です。教員にとってもそういう認識があまりないですから、その子にフリースクールを勧めることももちろんごさいませんし、ふれあい学級のことを伝えることもない。ですから、とても幅が広いわけですから。今の話は、欠席数の日数だけで申し上げましたが、他に、先ほど新居委員さんがおっしゃった、学校へ行きたい、行かなければならないと思ひているけれども、行くことができない子ももちろんいますし、学校へ行きたくない、行く必要がないというふうに考へている子どもも実際にはいます。もっと言えば、困り感がある子ども、自分がこの先どうなるのだろうと困っている子もいれば、表面的なことかもしれませんが全然そういうことは思ひていない子など、色々な状況の家庭や子どもがいます。その中で困っていて情報が欲しいと思ひているけれども、どこへ相談したらいいのか分からない、どのようなところが居場所なのか分からない方にとっては、先ほどのふれあい学級からの説明のように、色々な方法を通じて、必要な情報を届けていく。これはずっと続けていく必要があると思ひます。

問題として考へているのが、そういうことを欲さず、必要性も感じていないけれども、中学校を卒業してしまうと社会から隔絶される、そういう状況に置かれている子どももたくさんいるということなのです。その子どもたちをつなぐための色々な方法を考へないといけないのですが、学校で言えば担任の先生が一番の窓口になると思ひます。ただ、担任が家庭訪問をすると、これは学校の先生が来たというのはどうしても登校刺激という捉え方となります。それは大きな登校刺激となってしまう。ですから、そこに学校の先生ではないフリーな方、自治体によっては大学生がその役を担うなど色々なことをしていますが、そういう方が阿南市においても必要ではないかと考へています。自分がふれあい学級で室長させていただいていた平成10年は、市内で不登校の数が60から70人ではなかったかと思ひます。今と比較すると4分の1ぐらいでしたが、その頃は正規教員と臨時の方の2名体制でした。今、不登校児童生徒が240名と4倍になっている状況にもかかわらず、体制としては会計年度の方が2.5人となっています。これから言えば、非常に手薄な状況になっているということは否めないと考へています。ふれあい学級に来ている人数が少ないから、その体制で十分だろうというのは危険な考へ方で、やはりその数に応じた支援員が必要ではないかと考へております。今は中山先生や神野先生が、ふれあい学級に来ている子どもたちやかかってくる相談に懸命に対応していますが、なかなか休んでいる子どもたちを回すまでの余裕、余力はないだろうと思ひます。子どもと様々な支援先を結ぶことができる人材が、どこにでもいるかというところなかなか難しい面はあるかと思ひますが、学校と家とを取り持つような、自由に動くことができてその子の将来をつなぐために連携していくような役割ができるフレキシブルな人材はぜひ必要だろうと思ひます。以上でございします。

【岩佐市長】

それぞれ委員さんから御意見いただいたところでありまして、まとめるというわけではないのですが、今後もこうした不登校児童生徒というのはおそらくまだまだ増えていくのかなと思っています。林先生からお話もありましたけれど、アウトリーチで悩みを聞きに行くというのも1つであるとは思いますが、やはり人的な大変さっていうところも抱えているかと思っています。市長部局としましても、まずは色々な形で財政支援といったところでしかできないのかもしれませんが、そういった適切な財政支援等々を行っていくことができればと思っています。

加えて、個人的に以前から思っていたところですが、今回多様な居場所に関する広報、ふれあい学級等に関しても、県のホームページ等々ですね。こういった支援の場所があるっていうことにつないでいくことができる阿南市のホームページ、公式LINE等を使って、そういう場所を紹介できるというのはまず一歩かなと思います。これも県の時の経験ではありますが、徳島県も少し遅れているところもあって、このようなフリースクール等の施設の紹介がなかなか出てきていなかったところですが、今回ちょっと前に進んだのかなと思います。そこへつなぐ阿南市のホームページ等を使って紹介し、こういった居場所があるということを知ってもらう大きな一歩になろうかと思っています。まだまだ対策としては、さらに発展させなければいけないと思っていますので、引き続き御意見をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まだまだ御意見等あるかと思いますが、ちょうど目安としておりました2時になりましたので、次の協議事項に移りたいと思います。次に協議事項2の小中学校再編に係る市長部局と教育委員会との連携について、まずは教育総務課から説明をお願いいたします。

【西岡学校再編推進室室長】

それでは、教育総務課からは、小・中学校再編に係る市長部局と教育委員会との連携ということで御説明をさせていただきたいと思います。まず、画面上に阿南市立小・中学校再編基本計画と書いております。これは、令和4年度に現在阿南市教育委員会が進めている学校再編の基本方針を定めたものになっております。この学校再編基本計画の中では、市長部局との連携と施設の有効活用という項目がございまして、本日御説明させていただくテーマと合致したものとなっております。読み上げさせていただきますと、再編統合を実施するにあたり、阿南市総合計画をはじめとする市の各種計画との整合性を図り、地域活性化につながるよう取り組みます。また、再編統合後に学校として使用しない施設については、休校又は多様な利活用の方法を図ることができる廃校を検討しています。次のスライドになるのですが、現在、阿南市教育委員会では基本計画から一歩進みまして、阿南市立小・中学校再編実施計画の策定を進めているところです。この実施計画というのは、具体的にどの学校とどの学校が再編対象校になるというものになるのですが、この再編実施計画修正素案について、6月から7月の1か月間をかけてパブリックコメントを実施いたしました。通常のパブリックコメントよりも多い御意見をお寄せいただいております。前にも書いてありますとおり、88人から203件の意見が寄せられているという結果になっております。どのような意見が寄せられたかということは、これから御紹介させていただきますけれども、その意見を見ても、学校再編には市長部局との連携が欠かせないということを改めて再確認するという機会になりました。

では、資料には、本日のテーマに即した市民の方々からパブリックコメントで寄せられた意見を前に1から10まで書いています。もう1枚目に1から8まで計18件を抽出させていただいております。これらを全部説明することは難しいので、この中から少し抽出させていただきますと、画面上の9番目にある、「現在休校にしている施設をどうするのか、今までもそのまま朽ちていくのを待っている状況」ということで現在休校している学校の有効活用をどうしていくのかという御意見。あと10番目に「市内の人口推移を既定路線としているが、人口政策、地域振興は教育委員会部局だけでは不

可能なので、産業政策を市長部局、市民とともに作り上げていってほしい」という内容。これにつきましては市長部局と教育委員会との連携という項目になると思います。続いて、2枚目のページの一番上、「学校再編問題について、教育部門の都合だけに注目するのではなく、部門の壁にとらわれず、組織全体で課題とすべき」、これも教育委員会と市長部局との連携という御意見になります。そして、3番目になりますが、「編成には利点があるが、先々のフォロー体制の整備をまず行ってほしい。避難所としても利用することを考えると、たまに利用する施設よりも常に利用する施設であってほしい」、これも施設の有効活用という御意見になっております。

これら寄せられた意見の分類をさせていただいたのが次のスライドになります。今後寄せられた意見について、市長部局と連携するにあたって、どのような項目があるのかということ进行分类させていただいた一例でございます。前のマトリックスにあります、地域活性化、防災、通学路、施設の有効活用、就学前、これは保育所や幼稚園との連携です。また、文化、まちづくり、交通、これらのことが今後連携していくものになっていくのではないかと考えております。それでは、市長部局との連携と言っておりますけれども、市長部局とひとくくりにしても様々な部局がございます。前に書いてありますように、企画部から始まりまして、総務部、市民部、消防本部、選挙管理委員会も入れています。例えば、選挙管理委員会というのは、学校の施設が投票所になっているというところもあります。他にも色々な部局はありますけれども、一例としてこの市長部局との連携ということでどのような部局があるのかということを前に表示させていただいております。

では、この市長部局とマトリックスで説明させていただきました項目、どのような連携をしたらいいのかということで、この連携の一例というのがあります。まず、連携の一例として、地域の活性化、例えば、この地域の活性化について、市長部局のどのような部局と連携を図る必要があるかといいますと、ふるさと未来課や市民生活課地域活動支援室。防災であれば、危機管理課、消防本部というものもあります。通学路であれば土木課。施設の有効活用であれば、企画政策課や公共建築課の公共施設マネジメント室といった部局もあります。また、就学前であれば、保育所や幼稚園との連携ということになり、こども支援課、こども保育課。文化の振興であれば、文化振興課。都市計画やまちづくりでありましたら、都市政策課。あと交通であれば都市政策課。こういったものが連携の一例となっています。もちろん、他にも様々な連携、他の部局も関係してくるかと思いますけれども、これは一例ということで今回はこういった形で挙げさせていただきました。

これらの連携の中で一つ今日のテーマにもなっているところで、施設の活用というところをお伝えしたのですが、現在休校中の学校施設の有効活用をこれからどう進めていくかということも非常に重要になってくると思います。現在、教育委員会では学校再編を進めておりますけれども、それ以前に少子化等により休校になっている学校があります。前にあります伊島小学校・中学校、蒲生田小学校、新野西小学校、福井南小学校、大井小学校、これら休校中の学校の有効活用をどう進めていくのか、また現在教育委員会がこれから進めていこうとしている学校再編の中で新たに学校としての機能を終える学校について、どのように有効活用していかなければいけないのかということを経営委員会のみならず、市長部局の関係部署と連携をしながら進めていかなければいけないという状況になっております。

では、最後のスライドに、人口減少社会に立ち向かい、豊かでキラリと輝くまちへと書かせていただいております。これは阿南市の総合計画の2060年の総合ビジョンとなります。そして、一番下に、質の高い教育は個人とコミュニティと社会に多大で多様な効果をもたらすと書いております。教育委員会が質の高い教育を目指すということは、阿南市にとっても、これからのコミュニティの存続であるとか、社会の活性化に大きく貢献することができるものと考えております。以上、教育総務課学校再編推進室から御説明をさせていただきました。

【岩佐市長】

ただいま教育総務課からの説明がありましたが、この小中学校再編のことやそれを進めるにあたっての市長部局との連携について、それぞれ委員の皆様から御意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。では、林委員さんからお願いいたします。

【林委員】

新聞等で椿町中学校が載っておりましたが、次々再編計画が同じようなステップで進んでいくと、別の課題も出てくるのではないかという御意見がこの前の教育振興基本計画等策定委員会でも出ておりましたが、地域の拠点である学校を再編するという点については、その該当校同士の学校関係者、公民館関係者だけで協議をして進めていくというのはやはり無理があると思います。阿南市が導入している学校運営協議会であれば、それぞれの小中学校で外部の委員さんも入っていただいて、より良い学校づくりの提言をいただいていると聞いております。その学校運営協議会を導入しているところは、「地域学校協働活動（地域支援体制の国の事業）」を阿南市として導入することができるということを昨年の総合教育会議で提案させていただきました。パブリックコメントにも地域と学校をつなぐコーディネーターの存在がないという意見も出ていたと思います。

また、学校の先生が変わったら、これまでの議論が途切れるという意見も教育振興基本計画等策定委員会からも出ておりました。「地域学校協働活動」を導入すると、公民館を含め社会教育から学校教育、就学前、全ての該当者を網羅した組織で地域のことを考えることができると思うので、学校長が変わっても議論が継続されていき、リセットすることなくスタートすることができます。こういった事業を導入して、今後の地域の拠点はどうするのか、休校はどういった形がベストなのか、そういうのを並行して、この地域学校協働活動の委員さんを中心に議論をしなければ、教育委員会ばかりがより良い案を提示するというのは大変なことだと思います。小、中、地域も含めてそういうことに踏み切るべきではないかと強く感じました。以上です。

【新居委員】

小中学校再編は、簡単なことではなく難しいことだと思うのですが、パブリックコメントを読ませていただいても、皆さんの不安やこれからどのような学校が阿南にできるのだろうかと色々なご意見がございました。そのような意見を見ましても、今ある学校と同じではいけないのではないかと感じております。例えば、子どもたちに文化、スポーツに力を入れてもらいたいという思いがあっても、夏場、阿南市は体育館にクーラーをつけているところはなく、体育館でのスポーツはまず無理だと思います。スポーツに力を入れたくても、その部分で諦めなければならず、限られた選択肢しかなくなってきてしまいます。予算もかなり必要で簡単にはいかないと思いますけれども、これは教育委員会だけではどうにかなるものではないので、その辺も考えていただけたらと思います。

また、人口減少は、目に見えて危機を感じているものでもあります。学校教育の中でも、私達がここ阿南市に住み、自慢ができるもの、人を通してシビックプライドを持ち、ここで仕事をしてきた方だったり、外から阿南を見たり、地元で色々なことを頑張っている方たちの意見も聞きながら、地元に残りたいなという教育、機会をたくさん作っていったらと感じております。以上です。

【岡本委員】

林委員さんがおっしゃるとおり、地域の拠点をどうするのかというところに1つキーワードがあるかと思います。人口が少なくなっていく中で、集約をしていかなければ、市としても連携が取りづらくなっていくのかなと思います。那賀川町の例となりますが、小学校再編の話の中で、町の中心に位置するところに中学校、そして、幼稚園、図書館、旧役場、町民センターが集まってきております。

例えば、再編してその辺りに小学校を持てることができれば、その辺りを学ぶ場として1つ集約された拠点になるのかなと考えています。中学校に関しても、1学年に4クラス分の教室があるのですが、1年生であれば2クラスしか教室は使っておらず、今2つ残っている状態です。そういう部屋を再編の時に共同で使うことができる図書館や家庭科室なり、一緒に使うことができる施設があれば、新しい施設としても、規模を小さくして共同で使える場所ができれば、そのようなところとなりますし、防災の観点からも、1つまとまっておけば、子どもたちはここに逃げるとか、共同して防災活動もできるのかなと考えています。ちょうど町民センターの建て替え等の議論をされているかと思いますが、そういった連携を図る部分に関しては、地域活性化、防災、通学路、就学前、交通を集約することによってそれが可能になるのかなと考えております。以上です。

【里美委員】

これまで皆さんと一緒に学校訪問させていただいて、子どもたちの人数の急激な減り方に驚愕しました。行政の方から専門的な教育についての知識、適切な社会性を育むには、ある程度適切な生徒数が必要であるということや、1人では人とのつながりを学ぶことができないということを教えていただきました。学校規模が小さ過ぎると専門教科の教員が配属されないですから、音楽とか美術の教員が配属されないということであれば、いわゆる教育の機会均等ということが担保できないということも教えていただきました。そういったことも踏まえて、椿町中学の場合は受験が大きなきっかけだったのでしょ、特に子どもたちが学校に通っている当事者の方は危機感を持っていると思います。自分の子どもたちにはより良い教育を何か早く考えてほしいということだと思ふんです。必ずしもそうでなくても、皆さんのパブリックコメントを見ていると、ある程度の教育には適切な生徒数が必要ということは、皆さん理解していらっしゃるなっていうのは感じるものがあるんです。ただ、問題となるのは、先日のパブリックコメントでたくさん御意見がございました、これまで歴史とか地域独自の文化を育んできた地域の拠点となる学校がなくなることに対する不安や強い拒否感が感じ取れるなと思ったんです。それは、その地域を大切に思って、子どもたちの教育を通して地域を育んできた、そういった思いが強い地域ほど、そういう不安や学校をなくさないでほしい思いが強いということが読み取れるなと思いました。

だから、委員の皆さんもおっしゃっているように学校は単に勉強している場所ではない。学校で学ぶ子どもたちを通しての地域の大切なつながりはとても大きなものなんだなっていうのをこの頃感じています。学校の再編統合というのは、学校から子どもたちがいなくなった場合、より良い教育のために行政が新しく生まれ変わらせるぐらいの学校再生、再活用のビジョンが必要なんじゃないかなと思います。そのため、この2つは並行していかないと、出来上がっても不満足で、なんとなく魅力のないまちになってしまうんじゃないかなっていうのを皆さんのお話を聞いていて思いました。先ほど教育長さんからお話のあった、子どもたちと行政をつなぐ大学生のような人材を活用してはどうかというのは、すごく新しい視点だなと思いました。当事者の小・中学生が未来を見通してこうありたいと考えることは少し難しいと思います。同じ年頃の子といて部活動を頑張りたいといったことを考えても、10年後、20年後の大きな社会変動等を考え、こうあるべきと見通すのはなかなか難しいと思います。それまで地域を盛り立ててきた方々は、これまでやってきてよかったことはこれで良かったよねと踏襲してしまう傾向があると思います。世代的に未来を見通すことができる若者たちと話し合うことで、新しい視点からこの行政について考えることができる。徳島であれば教育大学もあり、あるいは行政やまちづくりに興味を持っている20代ぐらいの若い人や大学生、ミレニウム世代やZ世代と言われる人たちを雇用するという形ではなくとも、ボランティアで参加してもらう。自然に恵まれ、京阪神から近い、世界的な企業もある阿南市に興味を持っている若い人を広く募ってもいいんじゃないかなと、先ほどの御意見を伺って今思いつきました。

先ほどのプレゼンで最後に言ってくださった質の高い教育は個人とコミュニティと社会に多大で多様な効果をもたらすというのは、私も本当にそうだと思います。教育は未来への絶大な効果がある投資だと思います。ですので、今後は阿南市がどんなまちになってほしいかっていうのを、市長をはじめとして、市長さんだけの問題ではなく、市民はどうしていきたくていうのをより明確にビジョンとして打ち立てる、そういう時期が来ているのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

【坂本教育長】

各委員さんが御意見いただいたことと重複してしまうのですが、教育長を拝命して、この再編等で各地域の説明会を2度回らせていただきました。当初は、もっとお叱りの言葉を受けるだろうと覚悟して各地域を回っていました。実際のところ、自分が思ったよりはお叱りの言葉っていうのは非常に少なかったように思います。先ほど各委員さんからも出ておりましたが、地域のおじいちゃんやおばあちゃんももっと声を荒らげて言いたいことはあるけれど、地域の子どものためにということ御理解いただいているのかなと感じております。その後の校舎の再生、利用や町の存続でありますとか、やはりこちらも誠意を持って対応していかなければならないと考えているところでございます。

ところが、その後のことになると、正直なところ、教育委員会ではなかなかできないことが本当に多いところでありまして、市長部局の協力を得ながら共に進め、寂しい思いを我慢して下さっている住民の方に今度は市としてそれに応える方向性を示していかなければならないと思います。結果として、再編ができたからそれでよしということではなく、血の通った行政といいますか、簡単に言葉で言いましても、実際のところ難しいハードルはいっぱいあることは分かっているのですが、やはり一つ一つクリアしていかなければならないと考えているところでございます。よろしくお願いいたします。

【岩佐市長】

それぞれ委員の皆様から御意見いただきありがとうございます。最後に教育長さんの方からも強い要請があったのですが、私自身もまだ市長という立場になって、まだ住民説明会は十分出席できてはいないですけれども、先日の椿町中学校の説明会に関しては同席させていただきました。今までの流れも分かっているつもりではあるのですが、教育委員会としては、子どもたちを主眼としてより良い学びの場を確保するために再編統合を取らざるを得ないような部分もあろうかと思えます。その中で、市長部局としては、先ほどお話のありました学校のその後の利用というところでの連携は、私自身も大変必要不可欠なものだと思っております。委員さんからもありましたが、地元としては、にぎやかだったころから比べて、子どもの数はどんどん減ってしまっている。かたや、コミュニティ・スクールのように学校と地域がもっと連携して色々な形でバックアップしてくれというような中で、その地域の拠点となる学校が閉まってしまう思いも当然持っているかと思います。その中で、市長部局としても、やはり学校をどう利用していくか、住民の皆さんの思いが強く、休校のまま置いておいてくれという思いも重々分かるのですが、そうすると活用の幅も狭まってくるというところで本当に住民の方には本当に辛い思いをするのでしょうかけれども、一旦は廃校という形をとってまた活用の幅を広げていくというところでは、御理解も必要になってくるのかなと思います。利用に関しても、ここを廃校にし、こういった施設を入れようといった我々から一方通行なものではなく、地元としてもこういう活用ができる、このように使いたいとか、当然、避難所としての機能もどうやったら残せるのかとかいうことも含め、その点でも地元の方々と協議をさせていただいて、その地域が元気で残っていくような術というのは、これからも私どもとしても当然検討して

いきたいというふうに思っております。

子どもたちにとっても、離れた学校に通わなければいけないという点で、スクールバス等を含めた通学的手段についても、何かしらの手当をしなければいけないですし、新居委員さんからもお話もありましたが、学校施設としての暑さ対策等も含め、施設整備に関しても、必要な予算は確保して進めてなければいけないと思っております。こちらからの一方的な意見ではなくて、教育委員さんや地元の委員さん、地元の方々からも色々な御意見をいただきながら、こうしたことをすればより良い学校再編が進んで、子どもたちにとってより良い教育環境を整え、より良い地域が形成できるように進めてまいりたいと思っておりますので、また色々な御提案をいただけたらと思います。一通りお話いただきましたが、何か他にもこれを受けて御発言されたい方がいらっしゃいますでしょうか。

【林委員】

新野町で農業について意見があり、米が足りないと報道されている農業政策自体のこともよく話が出るのですが、学校の再編の話については、学校が残るところと、農作物が豊かに育つところとは違うというのが1つと、4月に能登半島にボランティアに行った際、能登半島の方も再編等で学校が少なくなったけど、避難場所として安全なところは地域の拠点として残してくれていたのよかったとも言っていました。

新野町でも同じように、20年経つと町内に学校がなくなっている計画となっています。しかし、ここには津波はこない、生協の配送センターもある、道の駅ができれば、学校はなくなっても、防災拠点としてはベストである等、地域の方々からの多数の意見があります。その話を聞いていると、食の自給自足を進めていくために必要な地域、それから命を守る防災の拠点、この2つを最優先にしないと。これらの観点を外した上での議論は、地域の方々にとっては再編と言っても深まりのないものとなってしまいます。そうなってくると、地域の魅力ある拠点づくりは、ますますできなくなるなど最近よく感じます。

【岩佐市長】

ありがとうございます。再編に当たっても、市長部局としてもそういった防災や食料の観点も踏まえながら、より良い教育環境、地域づくりに取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、協議事項2についてはこれで終わりたいと思います。

最後に協議事項3、その他について、何か委員さんから御意見ございますでしょうか。

【林委員】

今年度は、もう1回総合教育会議があるということなので、担当部局との壁をどう取り払うかということで大変重要と考えます。この前の新聞にて、三好で10月に開校する「みのり高等学校」が紹介されていました。阿南も開校すると載っていましたが、阿南や徳島で開校するのであれば、地元説明会の計画はあるのかと。不登校だった子どもたちが義務教育を終えた後、どのような状況にあるのか。学校現場も地域も行政も当事者の声を聴くというのが最も大切と思うので、個人情報のために把握しにくいと思うのですが、卒業後の子どもたちの実態について公表していいものがあれば、次回、可能な範囲で伝えていただけたら、さらに有意義な会になるかなと思いました。お忙しいと思いますが、御検討ください。

【岩佐市長】

御意見ありがとうございます。話としては存じ上げておりまして、それも学校施設等を使ってというような御希望もあったので、次回におきましては、そういったところをヒアリングなどした上で、

御報告させていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【七條企画政策課長】

大変貴重な御意見ありがとうございました。市長部局企画政策課といたしまして、ここスライドにも再度映させていただきましたが、人口減少社会に立ち向かい、豊かでキラリと輝くまちへというのが、阿南市総合計画 2021 から 2028 の 2060 年の道しるべということで、こういうテーマを掲げさせていただいています。今年はちょうど中間の年となっていて、総合計画の中間の見直しを行う予定です。中間見直しを行うにあたって、今までの計画をどのように行っているかという検証も踏まえ、御意見のあった体育館のエアコンや地域づくりなども、改めて目標に設定させていただこうという機会もあります。この総合計画の審議会に教育委員会から新居委員に出席していただくようになっており、来週、総合計画の審議会がありますので、貴重な御意見いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、閉会にあたりまして、岩佐市長から御挨拶をお願いいたします。

【岩佐市長】

それでは皆様お世話になりました。本日は、不登校児童生徒の多様な学びを支えるためにと小中学校再編に係る市長部局と教育委員会との連携の 2 点を御協議いただきました。

今後におきましても、様々な課題が出てこようかと思われそうですが、市長部局と教育委員会の強い連携のもとで、教育を行うための諸条件の整備や子育て支援の取組を実践してまいりたいと考えております。本日の会議では、全ての子どもたちがより良い学びの機会を得るためにも、教育委員会が取り組んでいる学校再編をはじめとする教育施策について、市長部局との連携を今後も密にしていく必要があると改めて認識をしたところでございます。

特に後半の学校再編に関しましても、その後の利用や子どもの学びということをしっかりと支援していく観点でさらなる連携を密にしなければいけないと思った次第でございます。本日委員の皆様よりいただきました御意見や御提言につきましては、市と教育委員会の共通の認識として持たせていただきまして、今後の教育行政の推進に生かしてまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

【七條企画政策課長】

以上で、令和 6 年度第 1 回阿南市総合教育会議を閉会いたします。皆様御協力ありがとうございました。先ほど、林委員さんからもお話にもありましたが、今年度は 2 回予定しておりまして来年の 3 月 21 日に令和 6 年度第 2 回阿南市総合教育会議を開催する予定となっております。この目的といたしましては、次期阿南市教育大綱の策定についての御議論をいただくことになっていますが、先ほど林委員さんから御提言いただいた課題等もお話できればと思っています。追って正式に通知させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

14：45 閉会